

# 記者発表（配布）資料

令和8年4月27日

課・館・所名	課・館・所長名	班長名	担当者名	連絡先 (県庁内線)
高校教育課	安村 祥二郎	南 伸一	友成 諒宜	083-933-4627 (4629)
発表内容の関係地域	全県、岩国、柳井、周南、山口、防府、宇部、山陽小野田、 下関、長門、萩、首都圏			

## 令和8年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査得点状況について

### 1 学力検査について

- (1) 実施日時 令和8年3月5日（木） 午前9時から午後3時まで
- (2) 実施教科 国語、社会、数学、理科及び英語
- (3) 実施時間 各教科とも50分
- (4) 配点 各教科50点満点

### 2 学力検査得点状況について

- (1) 教科別の平均点 国語 30.7点、社会 28.2点、数学 25.7点、  
理科 22.2点、英語 28.2点
- (2) 「得点の合計」の平均点 135.0点（最高点 241点）
- (3) 「得点の合計」の分布状況 別添資料のとおり

## 令和8年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査得点状況

## 1 受検者数及び教科別得点状況

受検者数	4,675 (5,618)					
教科名	国語	社会	数学	理科	英語	得点の合計
平均点	30.7 (29.3)	28.2 (26.6)	25.7 (24.7)	22.2 (27.9)	28.2 (23.9)	135.0 (132.4)
最高点	49 (49)	50 (50)	50 (50)	50 (50)	50 (50)	241 (241)
最低点	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	7 (6)

注1 全教科を受検した者について集計したものである。

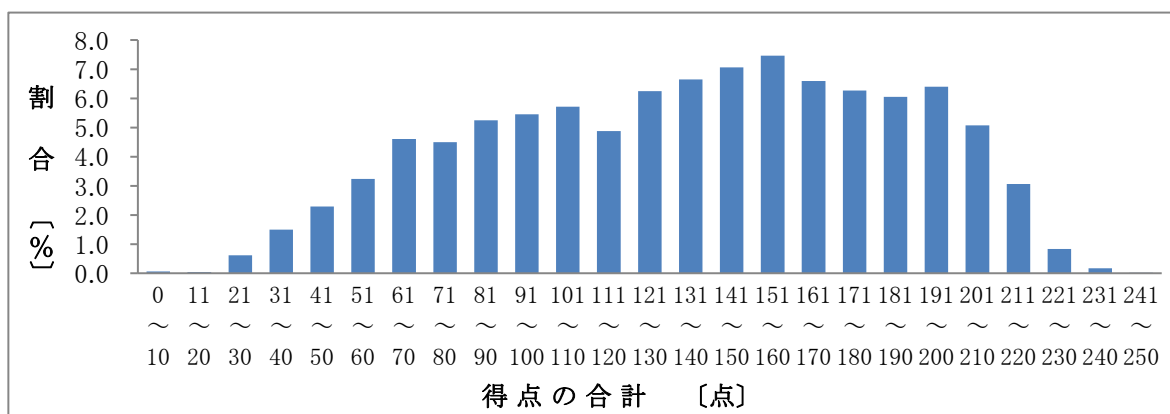
注2 各教科とも50点満点、「得点の合計」は250点満点である。

注3 ( )内の数値は、昨年度のものである。

## 2 「得点の合計」の分布状況

得点範囲 [点]	人数 [人]	割合 [%]
241 ~ 250	1	0.0
231 ~ 240	8	0.2
221 ~ 230	39	0.8
211 ~ 220	143	3.1
201 ~ 210	237	5.1
191 ~ 200	299	6.4
181 ~ 190	283	6.1
171 ~ 180	293	6.3
161 ~ 170	308	6.6
151 ~ 160	349	7.5
141 ~ 150	330	7.1
131 ~ 140	311	6.7
121 ~ 130	292	6.2
111 ~ 120	228	4.9
101 ~ 110	267	5.7
91 ~ 100	255	5.5
81 ~ 90	245	5.2
71 ~ 80	210	4.5
61 ~ 70	215	4.6
51 ~ 60	151	3.2
41 ~ 50	107	2.3
31 ~ 40	70	1.5
21 ~ 30	29	0.6
11 ~ 20	2	0.0
0 ~ 10	3	0.1
合計	4,675	100

注 割合は、小数第2位を四捨五入したものである。



令和 8 年度山口県公立高等学校入学者選抜

学力検査の結果の概要及び今後の学習指導に向けて

令 和 8 年 4 月

山 口 県 教 育 委 員 会

# 目 次

ページ

---

○ 令和8年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査の結果について	1
○ 各教科の結果について	
国語	2
社会	4
数学	6
理科	8
英語	10

## 令和8年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査の結果について

### 1 出題の概要

令和8年度の学力検査の出題については、中学校教育の充実と発展に資するよう、中学校学習指導要領(平成29年告示)に準拠しつつ、以下のとおりとした。

- 学習の到達の状況を把握するため、総合的に学力をみることができるよう、基礎的・基本的な内容と応用的な内容について均衡を図って出題した。
- 知識及び技能の習得状況を適切に測る内容を出題するとともに、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を測る内容を重視した問題を出題した。

### 2 結果の総評

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を測る問題、思考力、判断力、表現力等を測る問題のいずれについても、一部に課題はみられたものの、全般的に平素の学習の成果が表れていた。
- 表やグラフなどの資料を基に、身に付けた知識と関連付けて情報を読み取ったり表現したりする力をみる問題や、論理的に考察する力をみる問題では、学習内容の定着や情報の読み取りが十分でない解答が多くあり、更に努力が必要な状況がみられた。
- 今後とも、学習内容と日常生活を関連付けるなど、学ぶことの意義や有用性を実感できるような学習活動の充実を通して、学習に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切である。また、主体的・対話的で深い学びの実現により、知識及び技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することが重要である。

## 国語

### 1 出題の特徴

- 国語に関する基礎的・基本的な力をみるとともに、文章の種類を踏まえて、登場人物の心情や筆者の主張、物語や論理の展開の仕方などを適切に捉える力をみる問題を出題した。
- 複数の文章や図表などを結び付けながら内容を適切に解釈する力をみるとともに、国語に関する知識及び技能を実生活の場面で活用する力をみる問題を出題した。
- 作文の問題について、目的や意図に応じて必要な材料を集め、自分の考えを分かりやすく伝える力をみる問題を出題した。

### 3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

#### 《問題例①》

二 〈問題文は、山野弘樹「対話の思考法 相手とぶつからないコミュニケーション」から。ここでは省略〉

五 次は、右の文章を要約したものである。この要約を読んで、あとのア、イに答えなさい。

(略) そこで重要になるのが、対話を通して他者に一人称的経験を共有してもらい、その経験を追体験することである。その中で、**I** ことで、私たちは人間性を広げ、より豊かにしていくことができる。(略)

ア **I** に入る内容として最も適切なものを、次の1～4から選び、記号で答えなさい。

- 1 自分の考えに影響を与えた出来事を把握する
- 2 実際に自分が追体験できそうな経験を選択する
- 3 自分の希望やとるべき行動について熟考する
- 4 自分の判断の根拠となる情報について確認する

**正答** 3

#### 【解答の状況】

「1」や「2」を選択するなど、「経験と思考活動が人間性を形成する」ことを踏まえて「思考活動」の説明箇所に注目することができていない解答がみられた。

#### 【課題】

- 文章全体の論理の展開を踏まえて、筆者の主張を読み取ること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 文章全体と部分の関係に注意しながら、論理の展開を捉える学習活動の充実を図ること。
  - ・ 各段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読んだり、文章中に示されている筆者の主張と具体例との関係を考えながら読んだりすることに留意させたい。
  - ・ 例えば、文章全体の構成や論理の展開を意識しながら読解したり、理解した内容を文章にまとめて発表したりする学習活動の充実を図ることが考えられる。

## 2 結果の概要

- 登場人物の心情の変化や論理の展開を的確に読み取り、適切に表現する力をみる問題（**一**四Ⅱなど）はいま一步であったが、基礎的・基本的な知識及び技能に関する問題（**一**→**二**、**五**など）については、一部に課題もみられたものの、おおむねできていた。
- 複数の文章や図表などを結び付け、内容を適切に解釈する力をみる問題（**三**Ⅲ、**四**Ⅱなど）はできていた。
- 作文（**六**）については、条件に即して必要な材料を集めて表現することができていないものがみられ、いま一步であった。

### 《問題例②》

**四** 〈Aさんが総合的な学習の時間に、「身近な生活文化について調べたことをまとめ、発表する」という学習に取り組む場面〉

Ⅲ Aさんたちは、学校の近所で日本茶専門店を営んでいるYさんのところへ取材に行くことにした。次の【取材の様子の一部】を読んで、に入る適切な内容を、二十五字以内で答えなさい。

【取材の様子の一部】（一部抜粋）

Aさん お話を聞いて、大変参考になりました。Yさんのご意見をまとめると、茶葉の売り上げは減っているが、手軽に緑茶を飲めるようになって飲む場面が広がったことから考えると、だろうということですね。

**正答例** 緑茶が飲まれなくなっているわけではない

【解答の状況】

「家庭で茶葉から緑茶をいれることは少なくなっている」など、取材のやりとりの流れや、Aさんの発言における主張と根拠の関係を理解できていない解答がみられた。

【課題】

- 文脈を踏まえて内容を適切に解釈し、表現すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 意見と根拠の関係や論理の展開を捉えて内容を解釈し、自分の考えを分かりやすく表現する力の育成を図ること。
  - ・ 会話や文章全体の流れを踏まえて中心となる考えを捉え、意見と根拠の関係に着目して理解し、表現することを意識させたい。
  - ・ 例えば、「話すこと・聞くこと」の学習において、話の構成や論理の展開に注意して聞き取り、話し手の考えを整理した上で、自分の考えをまとめて表現する活動に取り組むことなどが考えられる。

## 社 会

### 1 出題の特徴

- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や概念の理解、技能の習得状況をみる問題を出題した。
- 知識及び技能を活用して、多様な資料から情報を読み取り、適切に表現する力をみる問題を出題した。
- 複数の資料を用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察する力をみる問題を出題した。

### 3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

#### 《問題例①》

5 (略)

- (6) 下線部⑥について、次の文は、政府が景気の安定を図るために行う政策を説明したものである。文中の（う）、（え）にあてはまる語の組み合わせとして正しいものを、下の1～4から一つ選び、記号で答えなさい。

政府は、日本銀行と協調しながら、景気の安定を図る（う）を行う。  
例えば、景気が悪くなると、政府は、公共事業（公共投資）を増やしたり、（え）したりすることで景気の回復を促そうとする。

- |   |          |        |   |          |        |
|---|----------|--------|---|----------|--------|
| 1 | う - 金融政策 | え - 減税 | 2 | う - 金融政策 | え - 増税 |
| 3 | う - 財政政策 | え - 減税 | 4 | う - 財政政策 | え - 増税 |

**正答** 3

#### 【解答の状況】

「1」や「2」を選択するなど、財政政策と金融政策の違いや財政政策の仕組みを理解することができていない解答が多くみられた。

#### 【課題】

- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や概念を確実に習得すること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 生きて働く「確かな知識」を習得させること。
  - ・ 例えば、公民的分野で経済について学習する際、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を取り上げ、生徒が内容の意味を理解できるように配慮する必要がある。
  - ・ また、基礎的・基本的な知識を、既習の知識と関連付けたり組み合わせたりすることにより、学習内容の深い理解と個別の知識の定着を図るとともに、社会において活用できる概念としていくことが重要である。

## 2 結果の概要

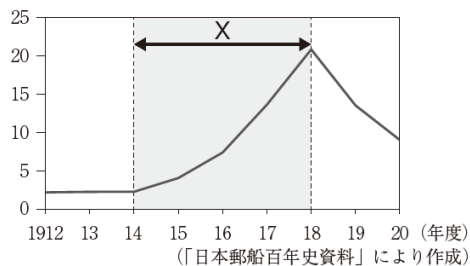
- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や概念の理解、技能の習得状況をみる問題 (3)(1)、(5)(4)などについては、一部に課題もみられたが、おおむねできていた。
- 知識及び技能を活用して、多様な資料から情報を読み取り、適切に表現する力をみる問題 (1)(4)などについては、おおむねできていた。
- 複数の資料を用いて、社会的事象について多面的・多角的に考察する力をみる問題 (6)(5)などについては、必ずしも十分とはいえなかった。

### 《問題例②》

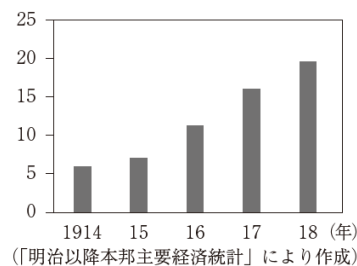
4 (略)

- (5) 下線部⑤に関連して、資料Ⅱは、大正時代に日本有数の海運企業であった日本郵船会社の貨物収入の推移について示したものである。資料Ⅱ中のXの期間に日本郵船会社の貨物収入が増加した理由について、Xの期間の国際情勢にふれながら、資料Ⅲから読み取れることを踏まえて説明しなさい。

資料Ⅱ 日本郵船会社の貨物収入  
(千万円)



資料Ⅲ 日本の輸出額  
(億円)



**正答例** 第一次世界大戦によって、輸出額が増大したため。

#### 【解答の状況】

資料から必要な情報を適切に読み取れていない解答や、「輸出額が増大した」ということについてのみ言及するなど、資料Ⅱと資料Ⅲから読み取れることを関連付けて適切に考察することができていない解答がみられた。

#### 【課題】

- 歴史的事象について、複数の資料から読み取れることを相互に関連付けて考察すること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 複数の資料から読み取れることを相互に関連付けながら、歴史的事象について多面的・多角的に考察する力の育成を図ること。
  - ・ 地図や年表、各種の統計などの多様な資料に平素から親しませるとともに、資料から読み取れることを相互に関連付けながら、歴史的事象の意味や意義等について多面的・多角的に考察する力を育成する必要がある。
  - ・ また、考察した結果を、根拠をもって自分の言葉で表現できるようにするために、文章で表現したり、意見交換したりするなどの活動の充実を図ることが考えられる。

# 数 学

## 1 出題の特徴

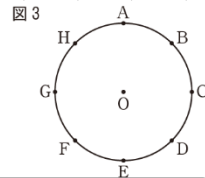
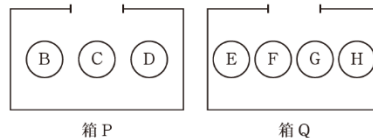
- 基礎的・基本的な内容について、概念や原理・法則などの理解及び事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能の習得状況をみる問題を出題した。
- 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力をみる問題を出題した。
- 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をみる問題を出題した。

## 3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

### 《問題例①》

5 (略)

- (2) 図2のように、文字B, C, Dが1つずつ書かれた3個の球が入った箱Pと、文字E, F, G, Hが1つずつ書かれた4個の球が入った箱Qがある。また、図3のように、円Oがあり、円周を8等分する点を、それぞれA, B, C, D, E, F, G, Hとする。



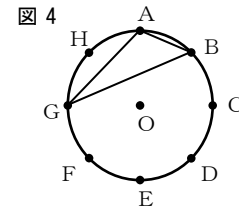
ここで、次の操作Ⅱを行う。

#### 操作Ⅱ

箱P, Qの中の球をそれぞれよくかきまぜて1個ずつ取り出し、取り出した球に書かれた文字と同じ文字の円Oの周上の点と、点を結んで三角形をつくる。

例えば、操作Ⅱにおいて、箱PからB, 箱QからGと書かれた球が出た場合は、図4のようになる。

操作Ⅱを終えたとき、円周上の3点を結んでできる三角形が、二等辺三角形となる確率を求めなさい。ただし、答えを求めるまでの過程もかきなさい。



**正答**  $\frac{1}{2}$

#### 【解答の状況】

樹形図などを正確に書いていないために「 $\frac{5}{12}$ 」や「 $\frac{7}{12}$ 」など、事象の数え漏れや事象を重複し、1を超える解答もみられた。

#### 【課題】

- 事象を論理的に考え、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現すること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 数学的な表現を用いて事象を明瞭・的確に表現・処理する力の育成を図ること。
  - ・ 問題解決のために必要な情報を整理し、正解を求める力だけでなく、生徒が自分の予測や判断について根拠を明らかにして表現し、説明できる力を育成する必要がある。
  - ・ 例えば、生徒が「確率が $\frac{1}{2}$ である」ことを求めるだけでなく、「確率が $\frac{1}{2}$ である」ことの意味を理解し、判断し、説明する活動を設定することが考えられる。

## 2 結果の概要

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得の程度をみる問題 (2) など) については、一部に課題もみられたが、おおむねできていた。
- 見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的な表現を用いて論理的に考察する力をみる問題 (6)(3) など) については、いま一歩であった。
- 事象を論理的に考えたり、柔軟に思考したりしながら、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力をみる問題 (5)(2) など) については、いま一歩であった。

### 《問題例②》

7 (略)

- (2) Sさんは、資料2をもとに、1か月の使用量が50 m<sup>3</sup>までの範囲で自治体Aと自治体Bの水道料金を比較し、気づいたことを次のようにまとめた。

Sさんのまとめ  
自治体Bの水道料金が、自治体Aの水道料金より安い料金となるのは、使用量が  m<sup>3</sup>より多く  m<sup>3</sup>より少ないときである。

このとき、Sさんのまとめが正しくなるように、、 にあてはまる数を求めなさい。

**正答**  15 ,  43

#### 【解答の状況】

適切に立式ができなかったために、アでは「16」や「17」といった解答がみられ、イでは、「41」から「49」まで幅広い解答がみられた。

#### 【課題】

- 数学を活用して事象を論理的に考察すること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 事象を捉え関数の特徴を考察し、表現する力の育成を図ること。
  - ・ 表、式、グラフを単独で用いるのではなく、それらを相互に関連付けて関数の特徴を考察する力を育成する必要がある。
  - ・ 例えば、具体的な事象から関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフで捉えるとともに、相互に関連付けて他者と論理的に説明しあい、表現を比較し、考察を深める体験をさせることが考えられる。

# 理科

## 1 出題の特徴

- 自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況、概念や原理・法則の理解の程度をみる問題を出題した。
- 見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、考察したことを適切に表現する力をみる問題を出題した。
- 日常生活や社会との関連を重視した科学的に探究する活動において、課題の解決に向けて実験結果を考察する力をみる問題を出題した。

## 3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

### 《問題例①》

8 (略)

(略)

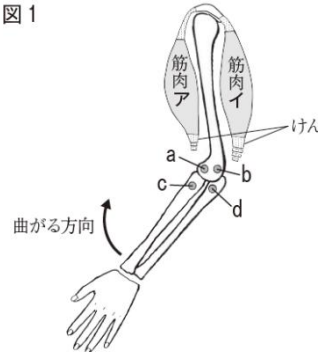
Sさん： (イ)腕を曲げて大きく振る力強いフォームで走っていて、(略)

- (2) 下線(イ)について、図1は、腕の筋肉やけん、骨などを表した模式図である。次の文が、腕が曲がるしくみを説明したものとなるように、に入る語句について、正しいものを、下の1～4から1つ選び、記号で答えなさい。

図1のが縮んで、腕が曲がる。

- 1 aとけんでつながっている筋肉ア
- 2 cとけんでつながっている筋肉ア
- 3 bとけんでつながっている筋肉イ
- 4 dとけんでつながっている筋肉イ

図1



**正答** 2

#### 【解答の状況】

「1」を選択するなど、腕が曲がる仕組みについて理解できていない解答が多くみられた。

#### 【課題】

- 自然の事物・現象や身近な現象について、論理的に考察すること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 基礎的な知識や概念、原理・法則について、科学的に思考することを通して理解を促す学習活動の充実を図ること。
  - ・ 身近な現象について、見通しをもって実験・観察を行い、得られた結果を考察することで、基礎的な知識や概念の確実な習得を図ることが重要である。
  - ・ 例えば、ヒトの腕が曲がる仕組みについて、問いを立て骨と筋肉の関係を考察したり、光の反射について、ICT等を活用し現象を視覚的に確認し入射角と反射角の関係を考察したりする活動が考えられる。

## 2 結果の概要

- 自然の事物・現象に関して、基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況、概念や原理・法則の理解の程度をみる問題（**1**～**4**など）については、一部はおおむねできていたが、**1**(2)、**2**(2)については、いま一歩であった。
- 見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、考察したことを適切に表現する力をみる問題（**6**(3)、**9**(3)）については、必ずしも十分とはいえなかった。
- 日常生活や社会との関連を重視した科学的に探究する活動において、課題の解決に向けて実験結果を考察する力をみる問題（**9**(4)）については、いま一歩であった。

### 《問題例②》

**6** (略)

- (3) [実験 2] の表 1 から、加熱する酸化銀の粉末の質量を変化させると、加熱後にできた銀の質量も変化することがわかる。5.00 g の酸化銀を十分な時間加熱したとき、加熱後にできる銀の質量は何 g か。表 1 をもとにして求めなさい。

図 2

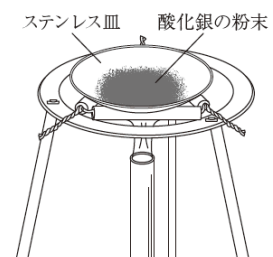


表 1

酸化銀の粉末の質量 [g]	1.00	2.00	3.00	4.00
①ではかった質量 [g]	30.00	30.00	30.00	30.00
④ではかった質量 [g]	30.93	31.86	32.79	33.72

**正答** 4.65 g

#### 【解答の状況】

④ではかった質量が、できた銀の質量とステンレス皿の質量の合計であることを理解できておらず「34.65」とした解答や、無答が多くみられた。

#### 【課題】

- 得られた実験の結果を適切に読み取ったり処理したりすること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 科学的な探究の過程において、数値を根拠に論理的に思考し、表現する力の育成を図ること。
  - ・ 実験で得られた結果を表やグラフに整理し、変数間における規則性や関係性について気付かせる学習活動を充実させ、数値を根拠にした論理的な思考力や表現力を育成する必要がある。
  - ・ 例えば、表やグラフを含む実験レポートの作成や、実験結果や考察についての発表を行うなど探究の過程を振り返る学習活動の充実が考えられる。

## 英語

### 1 出題の特徴

- 日常的な話題に関する対話を聞いて概要を捉える力、目的に応じて英語を聞き必要な情報を聞き取る力、説明を聞いて要点を捉える力をみる問題を出題した。
- 対話文やエッセイなど、まとまりのある文章を読んで、概要や要点を捉える力、目的に応じて必要な情報を読み取る力などをみる問題を出題した。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、伝える内容を整理し、英語で表現する力をみる問題を出題した。

### 3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

#### 《問題例①》

5 次の英文は、中学生のKenjiが書いた作文である。(略)

- (2) 次の(a), (b)は、作文の内容についての【質問】と、それに対する【答え】である。それぞれ適切な英語4語を書き、【答え】を完成させなさい。(b)は省略)

(a) 【質問】 When is the festival held every year?  
【答え】 It \_\_\_\_\_ .

**正答例** It is held in October .

#### 【解答の状況】

It held October every year. など、〈be動詞＋過去分詞〉という受け身の基本的な形を使って書くことができていない解答がみられた。また、It in October every year. など、英文に不可欠な要素である動詞が欠けている解答も多くみられた。

#### 【課題】

- 実際のコミュニケーションにおいて、文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用すること。

#### 【今後の学習指導に向けて】

- 語彙や表現、文法などの知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
  - ・ 外国語を適切に使用するためには、語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、話したり書いたりするなどの実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。
  - ・ 例えば、ALTに、地域の観光スポットを口頭で紹介する活動において、Our city's aquarium was built in 2001. It is visited by about 500,000 people every year.などの文を事前に提示し、受け身の形を適切に用いて話したり書いたりできるように指導することが考えられる。

